岩手県林業技術センター　**林業技術情報 No.14**（森林病虫害 NO.5）　平成17年8月8日発行

# スギカミキリの被害が発生する林齢

## －被害防除はいつから行えば良いか－

### 1　はじめに

前号（林業技術情報No13森林病虫害No4）ではスギカミキリの産卵習性から、粗い樹皮の隙間に産卵することを示しました。この習性のため、スギカミキリが植栽直後の樹皮がきめ細かいスギに産卵する可能性は低いものと考えられます。

スギカミキリの被害（材内の変色）は一度発生すると回復することはありません。仮に、被害の発生している林分のスギカミキリを全て駆除できたとしても、材内の変色は残ります。そのため、被害がいつから始まるかを明らかにし、林内にスギカミキリが定着する前に早期防除を行うことがとても重要となります。本号では林業技術センターで行った調査例をもとに被害の発生する林齢について説明します。

### 2　被害の発生と林齢の関係

1982年から88年にかけて、県内4林分で各5～10本の丸太を伐倒して被害の発生時期を調べました。スギカミキリは内樹皮部分を食害し、食害部分の傷は巻き込みによってふさがれるため（林業技術情報 森林病害虫3号参照）、木口面を観察し、巻き込み後の年数を数えることによって、その被害が何年生の時に発生したのか知ることができます。

図に被害の発生した林齢を示します。最も早い被害は８年生の時に発生しましたが、通常は10～15年生の間に初めて被害が発生することが多いようです。

### 3　産卵の習性との関係

被害の発生を林齢との関係で説明してきましたが、樹皮の粗さという視点でも説明できます。スギカミキリは樹皮の隙間に産卵するため、樹皮の粗いスギほど被害を受けやすくなります。スギは10～15年生のころに肥大成長の旺盛な時期をむかえ、樹皮が粗くなることが知られています。この頃に他の被害林分からスギカミキリが侵入してくると樹皮の粗い部分に産卵されやすく、被害の定着する確率が高くなります。**周囲にスギカミキリの被害が多い地域では、3齢級になったら被害侵入のモニタリングや防除を考える必要があります。**

### 参考文献

小林富士雄（1982）スギ・ヒノキの穿孔性害虫－その生態と防除序説－．166pp.，創文，東京.
佐藤平典ら（1988）岩手県におけるスギカミキリの被害Ⅰ－被害の分布と被害林齢－．日林東北支誌40：160-161.

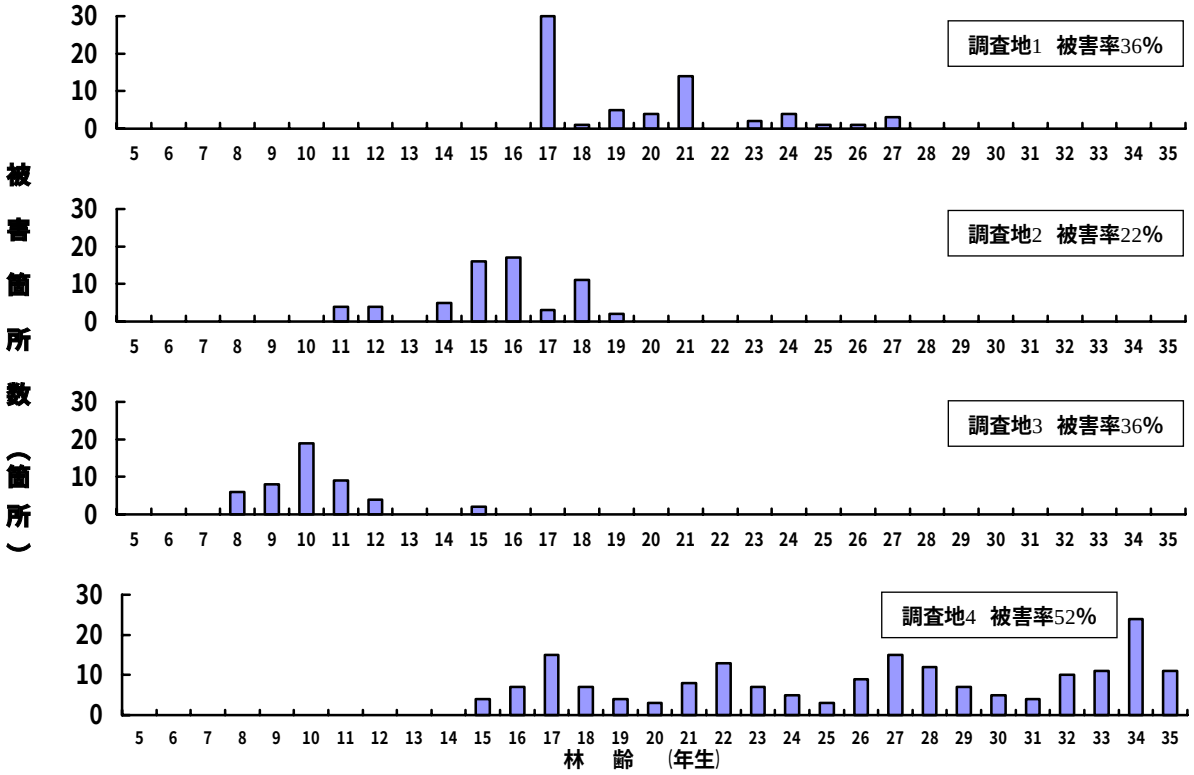


**図　スギカミキリの被害の発生した林齢**

（担当　森林資源部　主任専門研究員　髙橋健太郎）

連絡先
028-3623　岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第３地割560番地11　ＴＥＬ　019-697-1536
岩手県林業技術センター　ＦＡＸ　019-697-1410
ホームページアドレス　http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/